

## 授業実践 (12) 中学校2年生「クラスの痛み (朗読劇)」

1 主題名 よりよいクラスをつくる【内容項目C-(15)よりよい学校生活、集団生活の充実】

2 教材名 「クラスの痛み (朗読劇)」(『中学道徳② きみがいちばんひかるとき』光村図書)

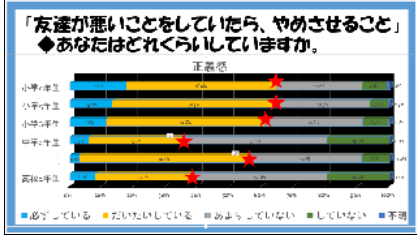
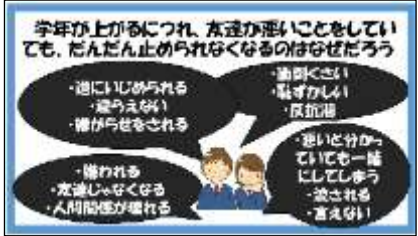

3 教材のあらすじ

学級委員の洋子が、幸次へのいじめについて鉄也に注意したことから、洋子に対する周囲からの嫌がらせが始まる。幸次を助けたいという洋子の思いとは裏腹に、幸次も不登校になる。いじめをめぐるクラスの問題について生徒たちに考えさせることができる台詞で構成された朗読劇である。

4 ねらい

いじめがあるクラスの間人間関係の問題に気づき、クラスの問題解決に必要な道徳的判断力と実践への態度を養う。

5 展開

段階	学習活動 ◆主な手立て	主な発問(○) 生徒の発言(・) 補助発問(●)
自己を見つめる	<p>1 前時の授業を振り返り、事前調査の結果を知る。</p> <p>◆傍観者の視点からいじめの問題を考えさせるために、事前調査の結果を紹介する。</p>	<p>○前時の授業で、友情と責任について考えたことを覚えていますか。 ○「私たちの道徳」のp.162のグラフです。なぜ、だんだんと止められなくなるのでしょうか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     クラスの問題にどう向き合うか考えよう                 </div>
	<p>2 朗読劇を見て、洋子のクラスの痛みについて考える。</p> <p>◆学級のいじめの構造に気付かせるために、板書に登場人物を整理し、加害者、被害者だけでなく、傍観者についても問題があることを押さえる。</p>	<p>○博司と直美はどんなことを考えたでしょう。 ・洋子の言うとおりで、いじめはよくない。 ・そんなこと言ったら、鉄也が怒ると思う。 ○このクラスの痛みとは何でしょう。 ・いじめです。 ○加害者は誰ですか。被害者は誰ですか。 ・加害者は鉄也 ・幸次は被害者 ●幸次は、どうなりましたか。 ・不登校。 ●そうですね。今、学校に来ることができていますか。 ・いいえ。 ○クラスの痛みはこれだけですか。 ・洋子もいじめの被害者だと思う。 ●そうですね。洋子も被害者ですね。誰が加害者ですか。鉄也ですか。 ・いや、鉄也じゃないと思う。クラスの誰かだけど、分からない。</p> 

自己を見つめる

自己の考えを広げ、深める

3 自分を見つめる。  
【書く活動①】

【話し合い】4人班

◆多面的・多角的に問題解決について考えさせるために、意見交流させる。

◆班の意見を可視化するために、ホワイトボードに意見をまとめさせ、黒板に貼らせる。

◆全体で話し合いを振り返るために、出た意見をKJ法でまとめる。

●「みんな」と表現されていましたね。このように、いじめがこのクラスの痛みと分かりました。このクラスの痛みを解決するには、周りで見ている傍観者の立場にも問題がありそうですね。今日は、このクラスの痛みについて、博司や直美のような傍観者の立場から考えてみましょう。

○鉄也の発言に、あなたが博司や直美だったらどう答えますか。

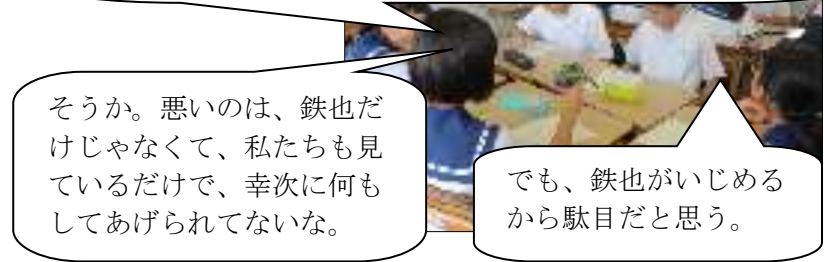
●このクラスの問題に置き換えて考えてみましょう。

- ① 鉄也と自分達どちらも責任があることを書いている。14人
- ② 鉄也が悪いことについて書いている。9人
- ③ 鉄也の言い分をそのまま受ける内容を書いている。2人
- ④ 自分たちの立場について書いている。7人

●「鉄也の言うとおりで」って書いている人がいますが、どうですか。  
・そう思いません。「鉄也が悪い」と言います。

●いろいろな意見があるようですね。班で意見を紹介し合ひましょう。

1回みんなで幸次の家に行こうよ。それで来たら、みんな  
で幸次に声を掛けよう。鉄也だけが悪いわけじゃない。

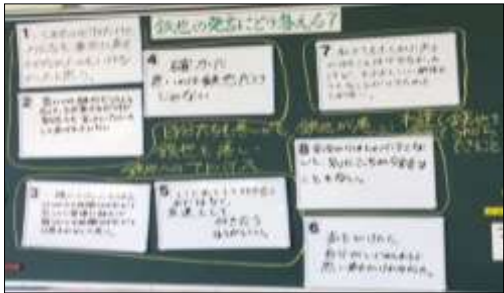


そうか。悪いのは、鉄也だけじゃなくて、私たちも見ているだけで、幸次に何もしてあげられてないな。

でも、鉄也がいじめるから駄目だと思う。

○班で1つずつ台詞を考えましょう。

●クラスの痛みを解決するためには、どのように鉄也に言ったらいいかな。



もっと台詞を  
付け加えなく  
ていい？

- ① 鉄也も悪いが、自分たちにも責任があることについて書いている（1・2・4班）。
- ② 鉄也が悪いことについて書いている（3・5班）。
- ③ 自分達の立場について書いている（6・8班）。
- ④ これから自分たちでできることについて書いている（7班）。

自己の考えを広げ、深める

これから自分を考える

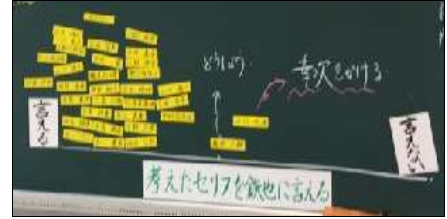
◆自分のこととして考えさせるために、自分だったらどうするか考えさせる。

【書く活動②】

◆全体の意見を可視化するために、選んだ立場にネームプレートを貼ることで、意思表示させる。その後、ワークシートに具体的にどうするか書かせる。

○考えた台詞を鉄也に言えますか。

- 「言える」人がほとんどですね。本当に言うことができますか。
- ・はい。



●「言えない」を選んでも、他に何かできることはありそうですね。

【言えない】2人

- ・悩むと思うけど、私は幸次に声を掛けたい。・どうしようか悩む。

【言える】31人 ※（ ）内の数は書く活動①の時の人数

→○どんな台詞を言いますか。

① 鉄也と自分たちの両方に責任があることを書いている。

23人（14人）

- ・たしかに僕たちも声を掛けてなくて見て見ぬふりをしていたけど、でもやっぱりその1番の原因は鉄也にあったと思う。だから全員でいじめをなくすための話をすればいいんじゃないか。

② 鉄也が悪いことについて書いている。2人（9人）

- ・幸次をいじめるの、やめた方がいいよ。

③ 鉄也の言い分をそのまま受け取る内容を書いている。

1人（2人）

- ・それもそうだね。

④ 自分たちの立場について書いている。1人（7人）

- ・自分もいじめられると思ったから。洋子だって結局いじめられているから。

4 自分の考えを深める。

【書く活動②】

◆本時のねらいと自分の生活とを関連付けて考えられるようにするために、「これまでの自分とこれからの自分」という文言をワークシートに示しておく。

○クラスの問題にこれからどう向き合いたいと思いますか。

- ・このクラスでも、もしけんかやいじめがあれば、すぐ自分から止めに行き、その場で解決させて、いじめを無くそうと思います。
- ・困ったことがあった時は、一人一人がしっかり考えて、きちんと向き合いたい。
- ・これから僕がクラスにいじめがあると分かったら、なぜいじめが起こったのかを考えて、誰か一人を責めるのではなく、みんなでしっかり話し合いをしようと思います。



## [授業のまとめ]

- 「自己を見つめることができたか」について
  - ・「私たちの道徳」の意識調査の結果と事前アンケート結果を見せ、学年が上がるごとに友達が悪いことをしていても止めることができなくなるのかを考えさせることで、自己を見つめるきっかけとしました。
  - ・資料の中の傍観者の立場からクラスの問題について考えるよう促すことで、資料中の人物と自己を照らし合わせ、いじめについて考えることができました。また、資料が中学校の学級でのいじめを扱っており、自己の経験と重ね合わせることに適した教材でした。
- 「自己の考えを広げ、深めることができたか」について
  - ・話し合いで班の意見を1つに絞るために、自己の考えと他者の考えとを比較、検討しながら、効果的に話し合いを行うことができました。意見交流を通して、クラスの問題について多面的・多角的に考えることができ、よりよい判断につながりました。
  - ・班の意見をホワイトボードにまとめたことで、クラス全体の考えが可視化されました。可視化により、班ごとの考え方の相違が明らかになり、多面的・多角的に考えることにつながりました。
- 「これからの自己を考えることができたか」について
  - ・書く活動①と書く活動②の記述内容を比較すると、加害者だけでなく傍観者の自分たちの責任に言及する記述が増えました。また、今後自分たちができることについて書いている生徒の割合が増加しました。
  - ・これまでの自己を振り返りながら、これからの自分はどう行動してきたいか多くの生徒が記述することができました。「いじめはダメ」ということは全員が知っています。それでも、学級の中で何か問題が起きたときに、直接自分とは関係ないからと言って、無関心でいるようなことはいけないと気付くことができた生徒もいました。学級の問題にしっかり向き合っていくことができるような自己の生き方について考えることができたのではないかと考えます。